



磐城女子高等学校

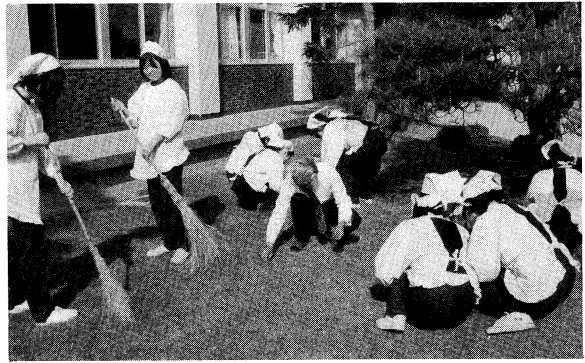


近代的な校舎

明治三十七年、旧平城の物見岡に近
い、安藤公の植物園に私立磐城女学校
として誕生して以来、通算七十一年の
歴史を持つ。

昭和四十四年には工費約二億四千万
円を要した新校舎が落成し、四階建て
の近代的な学舎に生まれ変わった。

だが、幾多の時代の推移にもかかわらず
変わらず変わらぬものは、長い間に培われ
て来た愛校精神であろう。学舎は六校
時終了のチャイムが鳴ると、三角巾と



全校生による清掃風景



体育祭恒例の仮装

割ぼう着で身仕度した全校生によって
美しく清掃され、教職員もいっしょに
取り組む情景は壮観でさへある。教師
にも生徒にも大切なことは、ともに学
ぶときの厳しさであり、ともに奉仕す
るときの謙虚さであって、体育祭・校
内競技大会などでは、ともに心行くま
で楽しむ伝統が脈々と流れている。

夏休みには、生徒会主催の旅行が毎
年企画される。昨年は尾瀬旅行が実施
され、好評を博した。この企画は、自



尾瀬旅行

然に親しむ中で、師弟が暖かく交流す
る場を提供している。

かくて、「わが磐陽の学舎に心と身
とを錬りあげむ」(校歌)とするテーマ
は、先輩から後輩に継承され、万古不
易の根本理念として、着実に深められ
て行くことだろう。

今秋には、七十周年記念式典が举行
され、校史に新たなエポックが開かれ
ようとしている。